

提出日 年 月 日

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_ 指導教員 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

【修士カテゴリー：社会福祉学専攻博士前期課程】

コースワーク・ルーブリック

リサーチワーク・ルーブリック

研究ルーブリック

- ・ 実践者版：実践課題研究
- ・ 研究者版：修士論文・博士論文

### A. 研究の基本技術の習得指標

\* 大学院での研究活動にあたり、学習の基礎力（読む、書く、発表する）の定着度を  
確認する

#### 1. 文献収集：研究の前提となる文献の収集について

- C. 文献の探索・選定ができる。
- B. 文献を適切に読解できる。
- A. 文献の要旨を端的にまとめられる。
- S. 文献を発表や研究に適切に引用・参照できる。

自己評価

教員評価

#### 2. 基本的な文章力について

- C. 基本的な文法をはじめ、文章を書く技術が身についている。
- B. 研究に必要な客観（知見）と主観（気づき・発見）の書き分けができる。
- A. 研究としての説明力を備えた、論述の手法が身についている。
- S. 研究として公開可能な論述の手法が身についている。

自己評価

教員評価

#### 3. 研究の発表方法（プレゼンテーション）

- C. 発表に必要な資料が正確に作成できる。
- B. 発表に必要な資料がわかりやすく作成できる。
- A. 発表に必要な資料が効果的に作成できる。
- S. 資料を活用して聴衆の関心を引く発表ができる。

自己評価

教員評価

## B. ソーシャルワーク研究としての基盤形成の指標

\* ソーシャルワーク研究に必要な研究基盤が身についているか確認する

### 1. 知識の習得

#### ① 基礎知識の習得

- C. 基礎知識（基幹科目）を理解できる。
- B. 基礎知識を活用して研究テーマ・仮説が設定・立案ができる。
- A. 基礎知識を活用して比較検討・議論ができる。
- S. 基礎知識を踏まえた考察ができる。

自己評価

教員評価

#### ② 研究領域の知識の習得

- C. 研究領域の先行する知見の収集ができる。
- B. 研究領域の先行する知見を正確に理解できる。
- A. 研究領域の先行する知見を適切に活用できる。
- S. 研究領域の先行する知見と持論の適切な比較によるオリジナリティの論証ができる。

自己評価

教員評価

### 2. 研究基盤の形成

#### ① 知識の習得状況（1の評価を踏まえて）

- C. 研究に必要な専門知識を理解しつつある。
- B. 研究に必要な専門知識が十分修得されている。
- A. 研究の公開に必要な専門知識が必要・十分に習得されている。
- S. 専門知識と持論の関連づけが妥当にできている。

自己評価

教員評価

#### ② 方法論に関する知識の習得状況

- C. SWの方法論の知識が理解されつつある。  
(ミクロ・メゾ・マクロレベルのSWの方法論の理解)
- B. SWの方法論の知識が研究に必要・十分に修得されている。
- A. 研究の公開に必要なSWの方法論が必要・十分に習得されている。
- S. SWの方法論の知識と持論の関連づけが妥当にできている。

自己評価

教員評価

#### ③ 価値観に関する知識の習得状況

- C. 専門的価値基盤について理解が進みつつある。
- B. 専門的価値基盤について妥当な理解ができている。
- A. 研究の公開に必要な価値基盤が必要・十分に習得されている。
- S. 専門的価値基盤と持論の関連づけが妥当にできている。

自己評価

教員評価

### C. 研究テーマを設定し焦点化を図る指標

\* 研究テーマを設定するにあたり、目的との相互性、研究の実現可能性などを確認する。

1. 具体性：研究目的に適った、明瞭なテーマ（研究仮説）が設定できているか
  - i. 研究目的が不明瞭でテーマとの相互性が確認できない
  - ii. 研究目的は明瞭だが、テーマとの相互性が確認できない
  - iii. 研究目的が明瞭でテーマとの相互性もあるが、テーマが漠然としてわかりにくい
  - iv. 研究目的も明瞭でテーマも具体的でわかりやすい
2. 独自性：先行研究を吟味して自身の研究の独自性が検証されているか
  - i. 先行研究の吟味が不足しており、独自性の論証が困難
  - ii. 先行研究の吟味が進みつつあり、独自性の論証の可能性が確認できる
  - iii. 先行研究の吟味が一段落して、独自性の論証が進んでいる
  - iv. 先行研究の吟味が十分なされ、独自性の論証について指導教員の下承を得られた
3. 研究水準
  - i. 先行研究や実践について十分な探索が行われていない
  - ii. 先行研究や実践を探索する視点や取り組みが確認できる
  - iii. 先行研究や実践の成果を現状の研究の到達度として理解できている
  - iv. 先行研究や実践の成果と課題を考察し、自身の研究の位置づけを説明できる
4. 研究方法と分析の視点（調査仮説）
  - i. テーマや目的に則した研究方法が選択できておらず視点も不明瞭
  - ii. テーマや目的に則した研究方法が選択できているが、視点が不明瞭
  - iii. テーマや目的に則した研究方法によって視点に焦点化した研究に着手している
  - iv. テーマや目的に沿った研究方法によって視点に沿った分析ができている
5. 研究の到達度
  - ① 進捗状況
    - i. 研究計画の立案中
    - ii. 研究計画に則した研究に着手できている（先行研究の収集・調査の実施）
    - iii. 研究計画に則した研究の分析が終了し考察ができている
    - iv. 研究計画に則した研究の分析・考察をふまえた結論が明示できている
  - ② 研究内容
    - i. 分析から明らかになったことが明瞭に説明されていない
    - ii. 分析から明らかになったことについて、わかりやすく文章化できている
    - iii. 分析から明らかになったことが、明瞭に結論と関連づけられている
    - iv. 研究結果が論理的に説明され、有効性と限界性が説明されている